

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073500318		
法人名	社会福祉法人 慈愛会		
事業所名	グループホーム富の里		
所在地	糸島市富508-4 (電話) 092-324-9333		
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 20 日	評価結果確定日	平成 28 年 2 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の住み替えが多いため、職員は会議の中で毎月一人ひとりの利用者の状態把握に努めながら安心して日常生活を過ごしていただけるよう支援している。また、個別担当制にした事で利用者・家族ともコミュニケーションを密にとる事ができ、信頼関係を構築している。生活の活性化を図る為、ラジオ体操など身近で誰にでもできる活動を定着していく事に努めている。戸外に出ることが少ない利用者に、季節を感じていただこうと畑の活用を職員全員で協力して行っている。収穫は利用者と一緒にいき、食卓に出せる工夫をしている。地域の方にグループホームを知って頂く為、行政区の清掃活動に参加して顔見知りの関係を築いたり、地域の祭りに出店している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 27 年 12 月 7 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、丘陵地に立地した3階建て2ユニットの事業所で、丘陵地の下手周辺には住宅が広がっている。2階が玄関、3階は支援ハウスとなっている。渡り廊下で同法人敷地内の事業所や施設等に行き来ができる。法人は地域貢献を目指しており、認知症サポーターの育成、行事を中心にした地域住民との交流を全体で取り組み、また認知症の研修や身体拘束廃止等各種委員会を設け、サービスの質の向上に努めている。事業所は法人各事業所と日頃の連携や協力を行い、避難訓練等も合同で実施している。法人と事業所は、職員の資質の向上を図り、職員全員が利用者の気持ちを大切にした個別のケアを提供できるように取り組んでいる。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を職員全員が理解できる為の研修を実施。法人理念を理解したうえで、事業所独自の目標（みんなの誓い）を唱和して業務に取り掛っている。利用者に寄り添った支援を心掛けている。	法人の運営方針としての地域貢献を各事業所が共有している。事業所は独自に「みんなの誓い」を作成して法人と事業所の理念を毎朝唱和している。職員は理念を共有してケアを振り返り実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の月一回のお宮掃除に職員が参加の継続を行い、グループホームの周知に努めている。また、地域の祭りの模擬店参加などで地域交流、貢献に努めている。地域の子供会との交流を継続して、地域の中のグループホームとして地域と繋がっていきたいと思っている。	事業所には近隣の住民が立ち寄り、保育園や学校との交流が行われている。毎月の早朝お宮掃除は職員が対応し、地域の文化祭や運動会等は利用者を伴い参加している。法人主催の地域交流会は地域住民との恒例行事であり、職員、利用者が地域住民と交流する機会ともなっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の子供会との交流や、地域のお宮掃除に参加する事で、認知症の人の理解を周知していけるよう働きかける。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者の委員の方に、事業計画・事業報告・研修・行事報告等の説明を行い利用者サービスの実際を知って頂く。会議の中で頂く意見、要望に関しては、グループホーム会議で職員に報告を行う。また、利用者への支援へ活かしていく。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、家族や委員に事業所の行事やサービスの状況を伝え、また評価への取り組みの報告等を行っている。車いすの利用者でも家族と外出ができるように、職員が自宅や外出先へ送迎を行うなど、会議での意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員の運営推進会議に出席して頂く事で、グループホームの実情、利用者状況を知って頂く。	市の職員とは介護保険の手続きや生活保護の相談、事業所の実情を伝える等を行っている。また、キャラバンメイトとして認知症サポーターの養成に関わるなど、協力関係の維持に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止検討委員会が、アンケートを取ることで身体拘束に関する禁止の対象となる具体的な行為の理解の周知に努めている。また、施錠をしない・スピーチロックなど日々の支援の中で身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束廃止の委員会活動があり、アンケート等を実施している。外出傾向のある利用者を把握し、その動向を見守ることなどにより、身体拘束をしないケアを行っている。職員が一人で対応する場合はチャイムやセンサーを利用している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議の中で、高齢者虐待関連法の周知が出来る様に、事業計画で取り組んでいる。又、虐待が見過ごされないよう、事故報告などの確認で注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を、グループホーム会議の中で取り組んでいる。成年後見制度に関しては、利用されている利用者状況なども職員へ説明を行い、個人が制度の理解が出来るよう支援している。	職員は、成年後見制度を利用している入居者がいるため、後見人との接触もあり十分関心を持っている。今後は、利用者家族から相談があれば支援していく。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、重要事項説明書を家族に提示して説明を行っている。不明な点は随時受けていけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者・家族、民生委員などの出席がある事で、事業計画・事業報告を確認していただき、意見を頂く工夫をしている。また、内部研修報告などを行う事で、グループホームの周知を図っている。頂いた意見を会議で職員に提示して、改善に努めている。	事業所訪問時には職員が声をかけて要望等を聞いている。事業所は、外出、買い物、外食、誕生日企画等や日常の援助方法についての希望や要望を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	外部評価自己評価の集計を行う上で、職員の意見や考えを知ることが出来ている。また、グループホーム会議の中でも、意見を出せる設定をしている。すぐに対応、改善が出来るものに関しては取り組んでいる。	事業所の運営について、職員はいつでも意見や提案を言うことができる。また用紙を配布したり、6ヶ月毎に人事考課の面接が行われている。職員の提案が反映され、全利用者の更衣が毎朝実施されるようになってきている。新採用者に対しては、サポーター制度があり、1年ほど指導者が職員の育成を行っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を有効に活かし、個々の就業状態の把握に努めている。また、向上心ややりがいを持ってよう職場環境の整備や、外部研修などの派遣、自主研鑽への支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しては、募集の時点から性別や年齢などを理由に採用対象から排除はしていない。また、職員には能力發揮、イキイキとして働けるよう資格取得、社会参加が出来るよう勤務環境に配慮している。	職員採用にあたっては、性別や年齢等を理由に判断するなどの採用基準は設けおらず、定年後も継続して働くことができる。事業所は資格取得にも積極的に取り組んでおり、自己実現が發揮できるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育に関する研修に職員が参加することで、グループホーム職員に人権教育・啓発活動が少しでも伝達できるように配慮している。	職員はセクハラ行為、虐待、同和問題等の人権に関する研修に参加している。勤務等で参加出来なかった職員は研修記録や資料に目を通し、全職員が人権や啓発活動を共有するように取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での新任・中堅・リーダー研修と職員の就業年数に合わせた外部・内部の研修が実施されている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者・リーダー研修を通じた職員間の交流で、他施設の実際を知ることができている。また、認知症リーダー研修受け入れ施設として、研修生を受け入れることで、お互いの認知症ケアの確認が出来ることで質の向上が図られている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の際は、居宅より情報を得ることや、他サービス利用時に面識を持つことに努めている。また、ショートステイを利用していただきながら、他利用者、職員との馴染みの関係作りにも取り組み、安心を確保することに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に自宅への訪問をさせて頂く事や、ご家族・利用者に施設見学をして頂く事で面識を持ち、現状の様子や取り組みなどの情報を交換して関係作りにも努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に自宅への訪問をさせて頂き、ご家族・利用者との面識を持ち、状態把握に努め、現状の支援の方策を考え対応を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、生活習慣や特技を發揮していただける環境を設定して職員と利用者が共に生活ができていると感じられるような関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族来園時には利用者と一緒に過ごせる環境を準備したり、誕生日や行事に家族と一緒に過ごす時間が出来るような企画を立てている。また、帰省の希望があれば、安心して自宅で過ごせるように準備を行い、情報を伝えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の知人が訪ねて来られたり、地域の掛かり付け医への継続した受診など行い、馴染みの関係が途切れないように努めている。	利用開始時に本人、家族から大切にしてきた馴染みの場所や友人などの情報等を確認している。馴染みの美容室や知人のいる通所介護などの情報を得ながら支援に努めている。またお寺さんとの繋がりを希望する利用者に電話の取次ぎをするなど関係が継続できるよう協力し支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事場面など、いつも過ごす時間を楽しく過ごせるような馴染みの関係作りを支援している。2ユニット合同の行事では、18名の利用者が馴染みの関係が構築できるような企画、支援をしている。また、個々の関係を把握することでお互いを支えあう関係作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームのサービス終了時には、住み替えがスムーズにいくように情報を整理して提供したり、同法人サービスを利用する場合は、家族に支援が出来るよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らしの場面場面で、個々の状態に合わせた支援を心掛けている。言葉で意思表示が出来ない事が多いので、本人本位の支援が出来るよう本人の言動や表情などから意向が把握できるよう努めている。	担当制をとり入れ、利用者により深く関わることで、利用者の意向や希望を上手く引き出しており、日常的に自己決定ができるような場面作りにも心がけている。意思疎通の困難な利用者には、家族からの情報や基本情報をもとに、利用者の想いに沿った支援となるよう工夫している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームでの生活支援がスムーズに行えるように、家族から生活歴や生活習慣を入所時や面会時に伺い馴染みの生活支援に努めている。また、他サービス事業者からの経過を紙面や聞きとりを実施しながら把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームでの生活の中で、職員は利用者の心身状態や持てる能力の把握に努めている。また、スムーズに生活支援が行われるように新職員には情報を提供している。各職員の利用者情報は共有してアセスメントに繋げている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には、グループホームでの支援に関しての意向を伺っており、職員間では日々の生活の中での本人の意向の把握に努めている。ひもときシート・センター方式シートを使用しての本人の想いを見つけ出し、介護計画に繋げる取り組みを行っている。	職員が担当利用者の意向や状態を把握して、アセスメント、立案する。担当者会議には看護師や栄養士も参加して個別的な計画が作成されている。家族、医師などの意見もとり入れ、情報も共有されている。見直しは基本的に6ヶ月に1回で、身体状況や認知症状の変化に伴い見直されることもあり、家族に報告、署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活の状態把握等は、日々の様子を職員個々が個人の記録に残しており、利用者担当は他職員からの情報を把握して、介護計画見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、家族の要望・意向には柔軟なサービス提供ができるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭や、交歓大会等に参加する為に、手芸や音楽を実施することで個人の持つ能力を見極め、発揮できるような支援に努めている。また、楽しむ事のできる時間の支援にも努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には、病院に関する希望をご本人家族に尋ねながら決めている。かかりつけ医とは、連絡・相談を行い状態変化に対応している。	利用者と家族が希望するかかりつけ医への受診には職員が同行しており、適切に受診できるよう支援している。家族の希望で同席されることもあるが、受診後は「受診記録」に医者のコメント、処方など詳細に記載し家族へ報告している。またその内容は全職員へ報告され、情報の共有をおこなっている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、毎日の利用者観察を行う。また、職員は、利用者の日々の生活の中で、皮膚観察や状態観察を行い、変化は看護師へ随時報告・確認を依頼している。状態により受診体制を取っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、病院との連携を持ち安心して治療が受けられるよう対応している。また、家族・医師・グループホームと情報交換を行いながら早期に退院が出来るよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化に向けた対応方法などご家族への説明は行っている。終末期ケアは実践していない。	事業所の方針は「重度化対応、医療連携における同意書」として明文化されており、利用開始時に利用者家族に説明している。基本的には事業所において重度化や終末期の対応は難しいものの、「一人ひとりを尊重した支援」に向けた医療ケアを目指したものとなっている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業計画に、緊急時の対応に備えて消防署に依頼を行い、救命手当の講習を職員全員が受講できるようにしている。また、酸素ボンベや吸引器の使用法の研修に取り組み、職員の緊急時の対応能力向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の日程を事業計画に設定して、地域の方の参加を依頼した訓練を実施。地域との協力体制の構築に努めている。また、職員は、避難訓練を通して避難誘導・通報装置の使い方などを学び、常に利用者の安全に努めている。	法人主催の合同避難訓練が年2回、事業所独自でも年2回実施している。消防署の協力を得て消火器の使用方法や避難経路の確認、夜間想定避難等も行っている。事業所は運営推進会議で地域へ協力の呼び掛けを行い、法人内からの協力も得ている。非常用食料は併設施設に、備品は事業所内に用意している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念を共有する中で、職員は利用者ひとり一人を尊重する対応、言葉使いや態度をいつも振り返りながら日常支援に努めている。	プライバシーの保護、個人情報の取扱いに関して、外部での研修や同法人内のサービス向上委員会での研修が行われ、それらを伝達研修している。各職員は排泄時や入浴時の支援に特に配慮し、利用者の部屋の出入り口にカーテンをつけるなどして、利用者のプライバシーを尊重した支援に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者間、職員との会話の中で、本人の希望を把握する事に努め、日常生活の中で食事・入浴・排泄に関して自己決定ができるような声掛けに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、業務の時間を出来るだけゆるやかに、利用者がゆっくり過ごせるように努めている。また、極少数数ではあるが、入浴時間の決定や、自室での時間の使い方など、その日の過ごし方を優先した支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴準備時には利用者と一緒に、衣類を選ぶよう努めている。また介護計画の中に取り組んだ、起床時の整容など身だしなみの支援に努めている。整容・理髪についても、個人の希望や清潔感などをくみ取り受けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や、栄養状態を把握する事や、その人に合った食事形態での食事提供や雰囲気作りに努めている。また、利用者の能力に応じて調理を分担し、少しでも関わられるように努めている。残存機能低下を予防するために下膳など片づけの手伝いを促す声掛けの支援をしている。	同法人内で栄養士が献立を立て、調理されているが、副菜の温めやご飯の炊飯、食事形態の変更は各ユニットでおこなわれている。また夕食の副菜の一品は各ユニットで作製、利用者の希望を聞き、買物や準備を一緒にすることで、食事が一層楽しみとなるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い、一日の状態把握に努めている。また、食事量減少の方については、本人の嗜好を優先した食事、高カロリー食の提供など栄養摂取や、好みの飲み物を把握しての水分確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや、うがいの実施に取り組んでいる。個人の口腔状態、清潔保持機能の観察を行い、口腔ケアの実施方法を全体研修会での外部講師による口腔ケアを参考に検討していく。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の能力に応じて、日中・夜間で布パンツ・紙パンツ、トイレとポータブルトイレと使い分けを行っている。また、職員は、利用者の生活習慣を把握してトイレ誘導を行い、スムーズな排泄援助に取り組んでいる。	職員は各利用者の排泄の習慣を把握し、更に排泄表での確認もしながら尿意の無い利用者へも排泄の自立支援を行っている。日中、利用者はおむつを使用することは無く、夜間においても、職員は関係者の意見も取り入れながら、最小限で各利用者に適した尿とりパットの選択やおむつ等の工夫を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便有無の把握を行い、排便困難な方には医師へ相談を行い下剤の調整を受けている。また、日々の排泄支援に関しても、食事形態や水分量等の観察を行う事や、排泄の習慣などを把握して、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者の体調や、希望に合わせた入浴日、時間帯で援助する事に努めている。また、利用者が安全に、安心して入浴ができるよう職員は見守りを行っている。しかし、入浴時間帯については、職員の勤務状態で実施している事が多い。	24時間循環式風呂によって毎日入浴でき、利用者の希望日に個浴での対応を行っている。また職員は利用者のこれまでの習慣やペースを尊重した入浴方法の支援に努めており、寒い日の入浴拒否の利用者には入浴前に足浴を促すなど、心地よく入浴できるよう工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた、ベット・布団など寝具調整を行い安心して休んで頂く支援をしている。夜間、トイレの使用の多い利用者には転倒防止など様子観察や会話を持つなどの支援を行っている。また、一日を通して体調に合わせたお昼寝など取り入れた生活支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の既往歴や、服薬している薬の容量や、用法についての理解や把握が出来るように、資料についてはファイルしている。薬の変更などによる状態変化の把握ができるよう職員全員で支援に努めている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者には、洗濯物干しや洗濯物たたみ等をして頂く役割を持って頂く支援をしている。また、個人の嗜好品を把握して行事の中で手作りをしている。季節を取り入れた外出企画で気分転換を図れるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望され実施できている方は少ない為、外出しやすい時期や時間を都合して、できるだけ戸外に出掛ける支援に努めている。また、誕生企画などでは、家族の協力を得て食事に出掛けて頂いている。	利用者の体調や天候に応じて、事業所周りの散歩や買い物を日常的に行っている。行事計画を立て、四季折々の花見など、年間を通して外出の機会を設けている。その他、利用者の誕生日には食事に出かけ、更に希望によっては自宅までの外出もあるが、その際には家族や同法人の職員の協力を得ている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が出来る方は数名である。自己管理出来ている方に対しては、移動スパーの来園時に買い物をしていただき支払を行っていただくなど、自己管理の支援を行っている。職員管理をしている金銭については、出納帳を確実に記録している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話連絡を希望される方には、取りつきまでの支援をしたり、手紙が書けるような準備を手伝っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂内では、職員の声や食器を扱う音が大きくならない様な配慮や、テレビ・CDの音の調整を行っている。壁面は、季節を感じて頂けるような飾りつけにしている。また、庭に咲いた季節の花を館内に飾ることなどに努めている。	共有部分は全体的にきれいに清掃され清潔感がある。食堂、居間にはクリスマスツリーやフラワーアレンジメント、生花が飾られ、季節が感じられる。また、窓からはテラスに吊るした干し柿や菜園が目に入り、家庭的な雰囲気となっており、居心地良い空間となるよう工夫されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合った利用者が一緒に食事が取れる様な席の配慮を行っている。館内には、畳みに腰を下ろす事が出来たり、少人数で談話出来るよう廊下を広くとり談話スペースを準備している。また、自室には個人で楽しめるよう馴染みの家具等を持参して頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の説明には、ご本人の使いなれた家具や、好みの物を持参頂けるよう伝えられている。居室内で、ゆっくり寝そべってTVが見れるような家具を持ち込まれていたり工夫されている利用者もおられる。	居室はそれぞれに馴染みのテーブルやテレビの持ち込みがあり、畳を敷くなどして自分の部屋として落ち着ける空間となっている。クッションや毛布、家族写真、時計といった小物等の好みのものが置かれ、職員は各利用者が安心できるよう家族と話し合って支援している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は、全体に手すりを配置。廊下は、広く作られているので、車椅子の自操や歩行器の使用が可能である。また、トイレや居室には目印や名前を表記して、自立した生活が送れるよう支援に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を職員全員が理解できるための研修を実施。法人理念を理解したうえで、事業所独自の目標（みんなの誓い）を唱和して業務に取り掛けている。利用者に寄り添った支援を心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の月一回のお宮掃除に職員が参加の継続を行い、グループホームの周知に努めている。また、地域の祭りの模擬店参加などで地域交流、貢献に努めている。地域の子供会との交流を継続して、地域の中のグループホームとして地域と繋がっていきたいと思っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の子供会との交流や、地域のお宮掃除に参加する事で、認知症の人の理解を周知していけるよう働きかける。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者の委員の方に、事業計画・事業報告・研修・行事報告等の説明を行い利用者サービスの実際を知って頂く。会議の中で頂く意見、要望に関しては、グループホーム会議で職員に報告を行う。また、利用者への支援へ活かしていく。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員の運営推進会議に出席して頂く事で、グループホームの実情、利用者状況を知って頂く。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止検討委員会が、アンケートを取ることによって身体拘束に関する禁止の対象となる具体的な行為の理解の周知に努めている。また、施錠をしない・スピーチロックなど日々の支援の中で身体拘束をしないケアに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議の中で、高齢者虐待関連法の周知が出来る様に、事業計画で取り組んでいる。又、虐待が見過ごされることがないように、事故報告などの確認で注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を、グループホーム会議の中で取り組んでいる。成年後見制度に関しては、利用されている利用者状況なども職員へ説明を行い、個人が制度の理解が出来るよう支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、重要事項説明書を家族に提示して説明を行っている。不明な点は随時受け付けるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者・家族、民生委員などの出席がある事で、事業計画・事業報告を確認していただき、意見を頂く工夫をしている。また、内部研修報告などを行う事で、グループホームの周知を図っている。頂いた意見を会議で職員に提示して、改善に努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	外部評価自己評価の集計を行う上で、職員の意見や考えを知ることが出来ている。また、グループホーム会議の中でも、意見を出せる設定をしている。すぐに対応、改善が出来るものに関しては取り組んでいる。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を有効に活かし、個々の就業状態の把握に努めている。また、向上心ややりがいを持てるよう職場環境の整備や、外部研修などの派遣、自主研鑽への支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しては、募集の時点から性別や年齢などを理由に採用対象から排除はしていない。また、職員には能力発揮、イキイキとして働けるよう資格取得、社会参加が出来るよう勤務環境に配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育に関する研修に職員が参加することで、グループホーム職員に人権教育・啓発活動が少しでも伝達できるように配慮している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での新任・中堅・リーダー研修と職員の就業年数に合わせた外部・内部の研修が実施されている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者・リーダー研修を通じた職員間の交流で、他施設の実際を知ることができている。また、認知症リーダー研修受け入れ施設として、研修生を受け入れることで、お互いの認知症ケアの確認が出来ることで質の向上が図られている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の際は、居宅より情報を得ることや、他サービス利用時に面識を持つことに努めている。また、ショートステイを利用させていただきながら、他利用者、職員との馴染みの関係作りに取り組み、安心を確保することに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に自宅への訪問をさせて頂く事や、ご家族・利用者に施設見学をして頂く事で面識を持ち、現状の様子や取り組みなどの情報を交換して関係作り努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に自宅への訪問をさせて頂き、ご家族・利用者との面識を持ち、状態把握に努め、現状の支援の方策を考え対応を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、生活習慣や特技を発揮していただける環境を設定して職員と利用者が共に生活ができていと感じられるような関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族来園時には利用者と一緒に過ごせる環境を準備したり、誕生日や行事に家族と一緒に過ごす時間が出来るような企画を立てている。また、帰省の希望があれば、安心して自宅で過ごせるように準備を行い、情報を伝えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の知人が訪ねて来られたり、地域の掛かり付け医への継続した受診など行い、馴染みの関係が途切れないように努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事場面など、いつも過ごす時間を楽しく過ごせるような馴染みの関係作りを支援している。2ユニット合同の行事では、18名の利用者が馴染みの関係が構築できるような企画、支援をしている。また、個々の関係を把握することでお互いを支えあう関係作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームのサービス終了時には、住み替えがスムーズにいくように情報を整理して提供したり、同法人サービスを利用する場合は、家族に支援が出来るよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らしの場面場面で、個々の状態に合わせた支援を心掛けている。言葉で意思表示が出来ない事が多いので、本人本位の支援が出来るよう本人の言動や表情などから意向が把握できるよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームでの生活支援がスムーズに行えるように、家族から生活歴や生活習慣を入所時や面会時に伺い馴染みの生活支援に努めている。また、他サービス事業者からの経過を紙面や聞きとりを実施しながら把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームでの生活の中で、職員は利用者の心身状態や持てる能力の把握に努めている。また、スムーズに生活支援が行われるように新職員には情報を提供している。各職員の利用者情報は共有してアセスメントに繋げている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には、グループホームでの支援に関しての意向を伺っており、職員間では日々の生活の中での本人の意向の把握に努めている。ひもときシート・センター方式シートを使用しての本人の想いを見つけ出し、介護計画に繋げる取り組みを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活の状態把握等は、日々の様子を職員個々が個人の記録に残しており、利用者担当は他職員からの情報を把握して、介護計画見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、家族の要望・意向には柔軟なサービス提供ができるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭や、交歓大会等に参加する為に、手芸や音楽を実施することで個人の持つ能力を見極め、発揮できるような支援に努めている。また、楽しむ事のできる時間の支援にも努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には、病院に関する希望をご本人家族に尋ねながら決めている。かかりつけ医とは、連絡・相談を行い状態変化に対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、毎日の利用者観察を行う。また、職員は、利用者の日々の生活の中で、皮膚観察や状態観察を行い、変化は看護師へ随時報告・確認を依頼している。状態により受診体制を取っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、病院との連携を持ち安心して治療が受けられるよう対応している。また、家族・医師・グループホームと情報交換を行いながら早期に退院が出来るよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化に向けた対応方法などご家族への説明は行っている。終末期ケアは実践していない。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業計画に、緊急時の対応に備えて消防署に依頼を行い、救命手当の講習を職員全員が受講できるようにしている。また、酸素ボンベや吸引器の使用方の研修に取り組み、職員の緊急時の対応能力向上に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の日程を事業計画に設定して、地域の方の参加を依頼した訓練を実施。地域との協力体制の構築に努めている。また、職員は、避難訓練を通して避難誘導・通報装置の使い方などを学び、常に利用者の安全に努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ない言葉かけや対応をしている	法人理念を共有する中で、職員は利用者ひとり一人を尊重する対応、言葉使いや態度をいつも振り返りながら日常支援に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者間、職員との会話の中で、本人の希望を把握する事に努め、日常生活の中で食事・入浴・排泄に関して自己決定ができるような声掛けに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、業務の時間を出来るだけゆるやかに、利用者がゆっくり過ごせるように努めている。また、極少数ではあるが、入浴時間の決定や、自室での時間の使い方など、その日の過ごし方を優先した支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴準備時には利用者と一緒に、衣類を選ぶよう努めている。また介護計画の中に取り組んだ、起床時の整容など身だしなみの支援に努めている。理容・理髪についても、個人の希望や清潔感などをくみ取り受けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や、栄養状態を把握する事や、その人に合った食事形態での食事提供や雰囲気作りに努めている。また、利用者の能力に応じて調理を分担し、少しでも係われるように努めている。残存機能低下を予防するために下膳など片づけの手伝いを促す声掛けの支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い、一日の状態把握に努めている。また、食事量減少の方については、本人の嗜好を優先した食事、高カロリー食の提供など栄養摂取や、好みの飲み物を把握しての水分確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや、うがいの実施に取り組んでいる。個人の口腔状態、清潔保持機能の観察を行い、口腔ケアの実施方法を全体研修会での外部講師による口腔ケアを参考に検討していく。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の能力に応じて、日中・夜間で布パンツ・紙パンツ、トイレとポータブルトイレと使い分けを行っている。また、職員は、利用者の生活習慣を把握してトイレ誘導を行い、スムーズな排泄援助に取り組んでいる。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便有無の把握を行い、排便困難な方には医師へ相談を行い下剤の調整を受けている。また、日々の排泄支援に関しても、食事形態や水分量等の観察を行う事や、排泄の習慣などを把握して、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者の体調や、希望に合わせた入浴日、時間帯で援助する事に努めている。また、利用者が安全に、安心して入浴ができるよう職員は見守りを行っている。しかし、入浴時間帯については、職員の勤務状態で実施している事が多い。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた、ベット・布団など寝具調整を行い安心して休んで頂く支援をしている。夜間、トイレの使用の多い利用者には転倒防止など様子観察や会話を持つなどの支援を行っている。また、一日を通して体調に合わせたお昼寝など取り入れた生活支援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の既往歴や、服薬している薬の容量や、用法についての理解や把握が出来るように、資料についてはファイルしている。薬の変更などによる状態変化の把握ができるよう職員全員で支援に努めている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者には、洗濯物干しや洗濯物たたみ等をして頂く役割を持って頂く支援をしている。また、個人の嗜好品を把握して行事の中で手作りをしている。季節を取り入れた外出企画で気分転換を図れるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望され実施できている方は少ない為、外出しやすい時期や時間を都合して、できるだけ戸外に出掛ける支援に努めている。また、誕生企画などでは、家族の協力を得て食事に出掛けて頂いている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が出来る方は数名である。自己管理出来ている方に対しては、移動スパーの来園時に買い物をしていただき支払を行っていただくなど、自己管理の支援を行っている。職員管理をしている金銭については、出納帳を確実に記録している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話連絡を希望される方には、取りつきまでの支援をしたり、手紙が書けるような準備を手伝っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂内では、職員の声や食器を扱う音が大きくなりすぎない様な配慮や、テレビ・CDの音の調整を行っている。壁面は、季節を感じて頂けるような飾りつけにしている。また、庭に咲いた季節の花を館内に飾ることなどに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合った利用者が一緒に食事が取れる様な席の配慮を行っている。館内には、畳みに腰を下ろす事が出来たり、少人数で談話出来るよう廊下を広くとり談話スペースを準備している。また、自室には個人で楽しめるよう馴染みの家具等を持参して頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の説明には、ご本人の使いなれた家具や、好みの物を持参頂けるよう伝えている。居室内で、ゆっくり寝そべってTVが見れるような家具を持ち込まれていたり工夫されている利用者もおられる。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は、全体に手すりを配置。廊下は、広く作られているので、車椅子の自操や歩行器の使用が可能である。また、トイレや居室には目印や名前を表記して、自立した生活が送れるよう支援に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない